



第36回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

女子		令和8年2月14日	15:50 開始
2回戦		グリーンアリーナ神戸	D

樟蔭	66	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>21</td></tr> <tr><td>17</td><td>2nd</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>3rd</td><td>14</td></tr> <tr><td>12</td><td>4th</td><td>19</td></tr> </table>	17	1st	21	17	2nd	19	20	3rd	14	12	4th	19	73	◎ 和歌山信愛
17	1st	21														
17	2nd	19														
20	3rd	14														
12	4th	19														

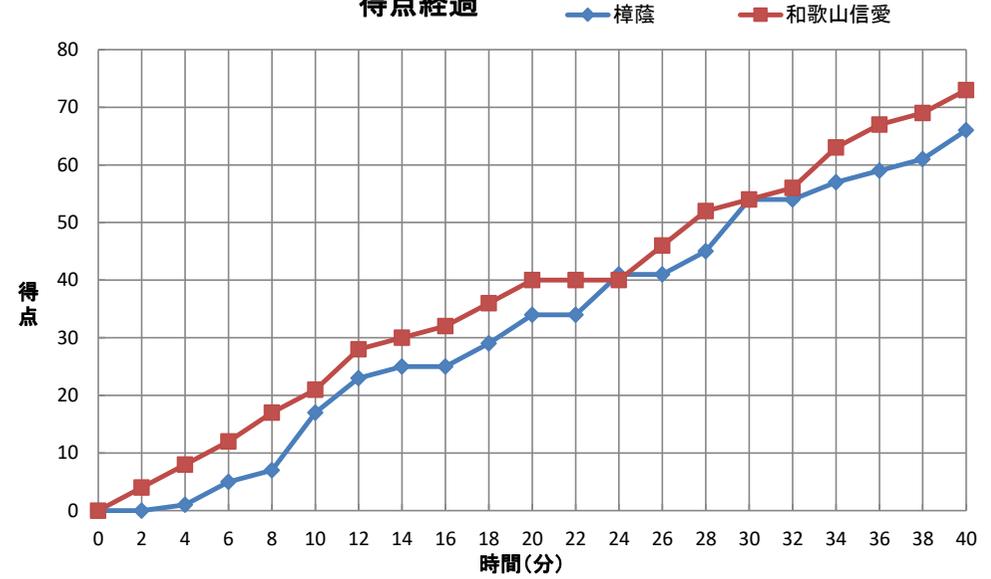
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	牧野 世朋	5	1	1	0	3	* 4	浦田 沙希	19	1	7	2	2
* 5	喜多 乃彩	7	1	2	0	1	* 5	石山 紗衣	18	0	8	2	3
* 6	仲 柚珠喜	2	0	0	2	1	* 6	本 日菜子	4	0	1	2	4
* 7	伊藤 心菜	19	2	5	3	4	* 7	佐藤 天香	12	1	4	1	1
* 8	東条 琳	33	1	14	2	3	* 8	中田 萌菜	20	0	9	2	3
9	岡市 七音	-	-	-	-	-	9	持館 里砂	0	0	0	0	0
10	竹市 美空	0	0	0	0	0	10	三藪 芽依	-	-	-	-	-
11	藪内 咲衣	0	0	0	0	1	11	中道 蘭	-	-	-	-	-
12	下藪 璃七	-	-	-	-	-	12	土橋 亜実	-	-	-	-	-
13	上田 暖	-	-	-	-	-	13	土橋 采実	-	-	-	-	-
14	浅井 美祐	-	-	-	-	-	14	鈴木 聖乃	-	-	-	-	-
15	竹下 咲来	-	-	-	-	-	15	中野 優里	-	-	-	-	-
16	佐々木 桃叶	-	-	-	-	-	16	重村 菜摘美	-	-	-	-	-
17	田頭 莉乃亜	-	-	-	-	-	17	重村 紗知穂	-	-	-	-	-
18	長谷 柚希	-	-	-	-	-	18	山本 真央	-	-	-	-	-
コーチ	岡田 済子						コーチ	宮本 浩次					
Aコーチ	宮部 貴行						Aコーチ	清水 健佑					
合計		66	5	22	7	13	合計		73	2	29	9	13

クルーチーフ: 森 照代

1stアンパイア: 小 柿 茉智子

2stアンパイア: 小 倉 岬

得点経過



TO	1・2Q	3・4Q			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	28:07	33:25	39:22	:	:	:
TeamB	:	:	38:38	39:52	:	:	:	:

〔戦評〕

【第1Q】

両チームともマンツーマンディフェンスで試合開始。和歌山信愛は#4浦田と#8中田の鋭いドライブで果敢に攻め立て序盤の主導権を握る。対する樟蔭は、#8東条を中心に攻撃を組み立てるが、和歌山信愛の連携の取れた2on2やリバウンドへの素早い反応に苦しみ、一時は3-12とリードを許す。追い上げたい樟蔭は、#8の連続得点や#4牧野の3Pシュート、#7伊藤の1on1などでスコアを伸ばすが、和歌山信愛は#4の華麗な1on1で応酬。要所で流れを渡さなかった和歌山信愛が、17-21とリードして最初のクォーターを終えた。

【第2Q】

序盤は激しい点の取り合いとなる。和歌山信愛は積極的なディフェンスで樟蔭にシュートを打たせず堅守を見せるが、樟蔭も内外を使い分ける攻撃で対応した。中盤、和歌山信愛は24秒オーバータイムを奪うなど、相手の得点源に対し執拗なディフェンスを仕掛け、速攻などで突き放しにかかる。しかし樟蔭は、#8が厳しくも徹底したマークを打破し、ゴールへと結びつける執念を見せる。終盤、速い展開と走力で優位に立った和歌山信愛が、34-40とリードして前半終了。

【第3Q】

開始早々、一進一退の攻防が続くスコアは停滞。均衡を破ったのは6点差を追う樟蔭。堅守速攻から#8が加點、さらにリバウンドシュートを決め残り7分で逆転に成功。一方の和歌山信愛も#5石山の体を張ったプレーで応酬。相手にずれを生じさせない鉄壁の守りを見せる。終盤、和歌山信愛は再び45-54と突き放すが、残り1分53秒に樟蔭がタイムアウトをとり冷静さを取り戻す。#8の3Pシュートや#7の1on1などで連続得点を重ね、54-54の同点で第3クォーターが終了。

【第4Q】

同点で迎えた最終クォーター、和歌山信愛は#4の1on1や3Pシュート、#7佐藤の速攻などで一気に54-63と突き放しにかかる。樟蔭は後半2回目のタイムアウトで立て直しを図ると#6仲の身を呈したりリバウンドから#7が3Pシュートを決めて応戦し、66-71と5点差まで詰め寄る。樟蔭は逆転を期して起死回生を狙うが、終始豊富な運動量と機動力で上回った和歌山信愛が66-73で勝利を収めた。再三突き放しにかかる和歌山信愛に対し、驚異的な粘りを見せた樟蔭の健闘は見事であった。

戦評: 丸山 映子

記録: 県立明石高等学校